

[要点]

- (1) 1221年、政権を幕府から朝廷に取りもどそうとして後鳥羽上皇は兵をあげたが、幕府の大軍に敗れ、隠岐に流された。これを承久の乱という。
- (2) 承久の乱の後、幕府は朝廷や西国の武士を監視するため、京都に六波羅探題という役所を置いた。
- (3) 1232年、北条泰時は領地や裁判などについての武士のならわしをまとめて御成敗式目を定めた。

[A問題：要点確認]

- (1) 1221年、政権を幕府から朝廷に取りもどそうとして後鳥羽上皇は兵をあげたが、幕府の大軍に敗れ、隠岐に流された。これを()という。
- (2) ()年、政権を幕府から朝廷に取りもどそうとして()上皇は兵をあげたが、幕府の大軍に敗れ、()に流された。これを承久の乱という。
- (3) 承久の乱の後、幕府は朝廷や西国の武士を監視するため、京都に()という役所を置いた。
- (4) 承久の乱の後、幕府は()や西国の武士を監視するため、()に六波羅探題という役所を置いた。
- (5) 1232年、北条泰時は領地や裁判などについての武士のならわしをまとめて()を定めた。
- (6) ()年、()は領地や裁判などについての武士のならわしをまとめて御成敗式目を定めた。

[B問題]

みなの方、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が 朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は...(中略)。名譽を大事にする者は、京都に向かって出陣し、逆臣を討ち取り幕府を守りなさい。

- (1) 資料の言葉は、何という戦乱のときに、だれが訴えたものか。
- (2) この乱の首謀者は誰か。
- (3) 乱の後、朝廷を監視するために京都におかれた役所は何か。
- (4) 1232年、領地や裁判などについての武士のならわしをまとめた法律が作られたが、何という法律か。

【解答】

- (1) 承久じょうきゅうの乱らん , 北条政子ほうじょうまさこ (2) 後鳥羽上皇ごとうはじょうこう (3) 六波羅探題ろくはらたんたい
(4) 御成敗式目ごせいばいしきもく

【C問題】

- (1) 承久じょうきゅうの乱は何年か。
(2) (1)の乱のときの執権しつけんは誰か。
(3) 承久の乱の後ご , 後鳥羽上皇ごとうはじょうこうは現在の何県けんのどこに流されたか。
(4) 御成敗式目ごせいばいしきもくを定めたのは誰か。
(5) 御成敗式目が定められたのは何年か。
(6) 御成敗式目を定めた理由は何か。

【解答】

- (1) 1221年 (2) 北条義時ほうじょうよしとき (3) 島根県しまねの隠岐おき (4) 北条泰時ほうじょうやすとき (5) 1232年
(6) 御家人ごけにんに対する裁判の基準を示すため。